患者様はご自身の病因を知る権利があります

糖尿病と診断され、少しでも1型糖尿病が疑われる場合自己抗体の測定を！

監　修
東京大学大学院医学系研究科
特任教授
帝京大学医学部附属溝口病院
常勤客員教授
門脇　孝 先生

糖尿病の成因について

【1型糖尿病】

成　因

主に自己免疫による膵β細胞の破壊がみられるHLAなどの疾患感受性遺伝子の関与も知られている。

治　療

主にインスリン補充療法を行う。

【2型糖尿病】

成　因

インスリン分泌低下を主体とするものと、インスリン抵抗性が主体で、それにインスリンの相対的不足を伴うものなどがある。

治　療

食事・運動療法による生活改善を行う。それでも血糖コントロールが不十分の場合は薬物療法を行う。

1 型糖尿病が少しでも疑れた場合、自己抗体を測定しましょう。

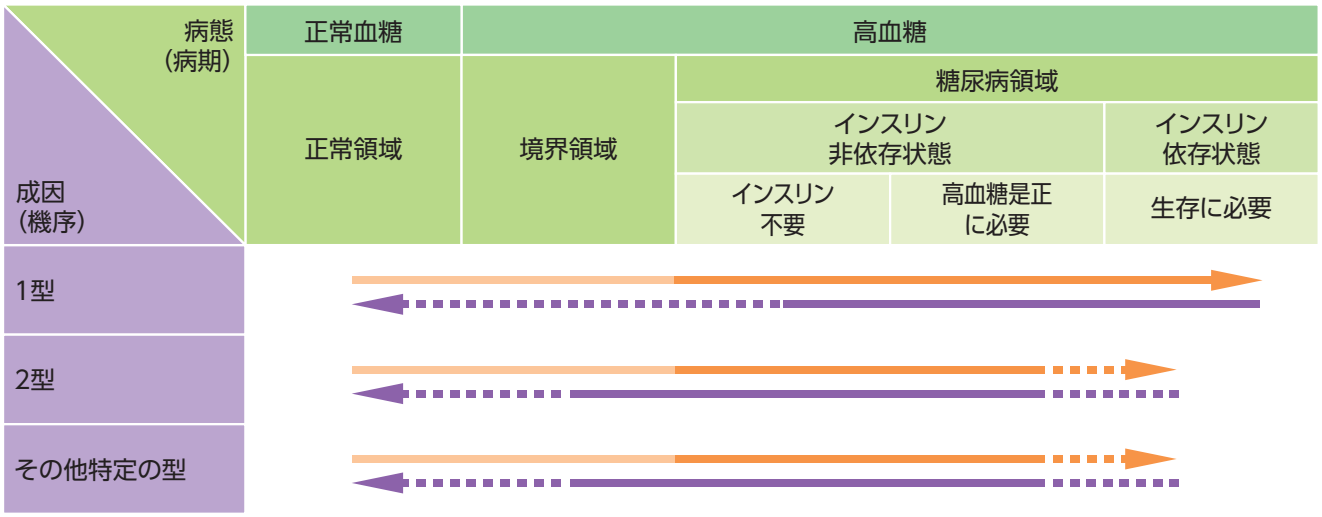
糖尿病と診断

下記の特徴のいずれかがある場合

- 血糖コントロールが非常に悪い
- Cペプチドが低値である
- 糖尿病の家族歴がない
- 肥満歴がない
- 自己免疫性甲状腺疾患の既往がある

- なし → **2型糖尿病**
- あり → **抗GAD抗体**
  - 陰性 → **抗IA-2抗体**
    - 陰性 → **他の自己抗体**
      - 陰性 → **2型糖尿病もしくは1型糖尿病（特発性）**
      - 陽性 → **1型糖尿病（自己免疫性）**
    - 陽性 → **1型糖尿病（自己免疫性）**
  - 陽性 → **1型糖尿病（自己免疫性）**

糖尿病は成因（発症機序）と病態（病期）を正しくとらえる事が重要です



図右への移動 ➡ は糖代謝異常の悪化（糖尿病の発症を含む）、図左への移動 ⬅ は糖代謝異常の改善を示す。
━、━ の部分は「糖尿病」と呼ぶ状態を示し、頻度が少ない病態（病期）は破線 ┅、┅ で示している。

日本糖尿病学会糖尿病診断基準に関する調査検討委員会：糖尿病の分類と診断基準に関する委員会報告（国際標準化対応版）．糖尿病55：489，2012より引用

「成因」と「病態」両方をとらえることにより、適切な治療を行う事ができます。

なぜ、成因による分類をする事が重要なのでしょうか？

糖尿病は1型糖尿病と2型糖尿病に大別されます。1型糖尿病には発症形式によりさらに3分類されます。急性発症1型糖尿病、劇症1型糖尿病、緩徐進行1型糖尿病（SPIDDM）です。
急性発症1型糖尿病と劇症1型糖尿病では、発症時に著明な高血糖、糖尿病ケトーシスや糖尿病ケトアシドーシスがみられるため、2型糖尿病との鑑別は比較的容易ですが、SPIDDMは一見すると2型糖尿病と区別がつきません。SPIDDM患者に対して、SU薬を使用すると、インスリン治療と比べてインスリン依存状態への進行リスクが高まる事が報告されています。
インスリン依存状態への進行を抑えるためにも病型の鑑別が重要となります。

自己抗体を測定することにより成因を分類し適切な治療を行うことが可能です。正しい治療や患者様への説明のため、糖尿病と診断され、1型糖尿病が少しでも疑われたら自己抗体を測定しましょう。

コスミック コーポレーション

397-01-1907-3000S